

madsaunist プロデュース、日本初の地域資源循環型 サウナが「稲荷湯」に誕生

飛騨高山の森から生まれる木質残渣を AEJ がバイオコークス化。

1943 年創業の銭湯が、地域の資源を熱と香りに変える循環モデルへ



合同会社 inari（本社：岐阜県高山市、代表：中村 匠郎）が運営する銭湯

「稲荷湯」は、2026 年 5 月 27 日のリニューアルオープンにあわせ、地域資源循環型の新たなサウナを導入します。

今回導入するサウナは、madsaunist（マッドサウニスト）がプロデュースし、燃料には高山市に本社を置く ALTERNATIVE ENERGY JAPAN 株式会社（本社：岐阜県高山市、代表取締役社長：小池 雄大、以下 AEJ）が開発したバイオコークスを活用します。

バイオコークスの原材料には、飛騨産業株式会社（本社：岐阜県高山市、代表取締役社長：岡田 明子、以下飛騨産業）のエッセンシャルオイルの製造工程で生じた木

質残渣を使用します。木質残渣とは、エッセンシャルオイルを蒸留した後の搾りかすのことです。

さらに、精油とともに抽出される蒸留水をサウナ室内の香りとして活用。飛騨の森の恵みを、熱と香りの両面から体感できる空間として設計しています。

地域の木質残渣をバイオコークス化し、銭湯サウナの燃料として活用する取組みと



しては日本初（当社調べ）となります。稲荷湯は、地域資源循環型サウナ事業を通じ、銭湯経営の持続可能性と地域資源循環の新たなモデルづくりに取り組みます。

燃料価格高騰の時代に、銭湯をどう残していくか

稲荷湯は、1943年の創業以来、高山市の暮らしに寄り添う銭湯として営業を続けてきました。銭湯は、地域の方々が日常的に湯に浸かり、顔を合わせ、安心して過ごすことのできる生活インフラです。

一方で、銭湯は大量の熱エネルギーを必要とする事業でもあります。近年の国際情勢や為替、エネルギー市場の変動に伴う燃料価格の高騰は、地域の小規模な銭湯経営にとって非常に深刻な課題となっています。

稲荷湯では、この課題に対し、単に燃料費を抑えるだけでなく、世界情勢や化石燃料価格に左右されにくい銭湯経営のあり方を具体化してきました。

今回のサウナリニューアルは、サウナブームに応えるためだけの設備更新ではありません。地域に愛されてきた銭湯をこれからも残していくために、脱化石燃料化を進め、地域の中にある資源を地域の中で循環させるための取り組みです。

飛驒の森の未利用資源を、地域の熱エネルギーへ

飛驒地域には、豊かな森林資源があります。その一方で、木を活用する過程では、製品にならない端材や未利用部分も生まれます。

今回の取り組みでは、飛驒産業がエッセンシャルオイルを製造する工程で生じる木質残渣を、AEJ がバイオコークス化し、稲荷湯のサウナ燃料として活用します。

バイオコークスは、植物由来の未利用資源等を固形燃料として活用する技術です。稲荷湯では、この燃料をサウナの熱源として活用することで、地域の森林資源を地域の熱エネルギーへと転換します。

さらに、精油とともに蒸留される蒸留水をサウナ室内の香りとして取り入れることで、利用者は飛驒の森の恵みを香りとしても感じることができます。

森から生まれた資源が、熱となり、香りとなり、人の身体を温める。そして、燃焼後の灰は地域の農家へ提供する。稲荷湯の新サウナは、地域資源をできる限り無駄なく活かす循環モデルを、日常の入浴文化の中に実装する取り組みです。



madsaunist プロデュースによる、地域の日常に開かれたサウナ

今回リニューアルするサウナを手がけるのは、全国から指名が絶えないサウナ界の最高学府——アカデミックサウナレーベル「madsaunist」がプロデュースします。稲荷湯の新サウナでは、長野県茅野市のケンズメタルワークによる業務用薪サウナストーブを採用。さらに、燕三条の金属加工技術によって開発された madsaunist オリジナルのスチームジェネレーターを組み合わせることで、薪ストーブならではの力強い熱に、きめ細やかな蒸気を重ねたサウナ環境を構築しています。

サウナ室では、飛騨産業のエッセンシャルオイル製造工程で生まれる蒸留水を香りとして活用。飛騨の森の恵みを、熱だけでなく香りからも感じられる空間としています。

サウナ室の定員は 16 名。特別なサウナ体験を目的に遠くから訪れる人だけでなく、地域の方々が日常的に利用できる銭湯サウナとして、熱、蒸気、香り、呼吸感、そして燃料の背景までを含めて体感できる空間として設計しています。



地域資源循環モデル

本取り組みでは、以下のような循環モデルを構築します。

1. 飛驒産業のエッセンシャルオイル製造工程で生じる木質残渣を活用
2. AEJが木質残渣をバイオコークス化
3. 稲荷湯のサウナ燃料として使用
4. 精油とともに蒸留される蒸留水をサウナ室内の香りとして活用
5. 燃焼後の灰を地域農家へ提供



これにより、森林資源、ものづくり、エネルギー、銭湯、農業が地域内でつながる循環を生み出します。

稲荷湯では、この取り組みを通じて、地域銭湯の持続可能性を高める新たなモデルの実装に取り組んでいきます。

関係各社コメント

合同会社 inari

稲荷湯は1943年の創業以来、地域の暮らしに寄り添う銭湯として営業を続けてきました。銭湯は、かつては公衆衛生を支える生活インフラとしての役割が中心でしたが、近年では、人が集い、顔を合わせる地域コミュニティのハブとしての役割も担っています。

今回リニューアルするサウナは、単なる設備更新ではありません。飛騨の森から生まれる木質残渣をバイオコークスとして活用し、その熱と香りをサウナという日常的な体験の中で感じていただくことで、地域の資源循環や熱エネルギーの可能性に触れられる施設を目指しています。

銭湯は大量の熱エネルギーを必要とする事業だからこそ、今後は地域資源を活用した脱炭素の取り組みも重要になります。このサウナが、地域の方々にとって日常の楽しみであると同時に、飛騨高山における新しい熱エネルギー循環を体感するきっかけとなれば幸いです。

madsaunist

今回の稲荷湯サウナでは、地域の日常に根ざした銭湯サウナでありながら、熱・蒸気・香り・呼吸感のすべてを丁寧に設計することを重視しました。

熱源には、サウナ界で高い支持を集めるケンズメタルワーク製の業務用薪サウナストーブを採用し、そこに弊社独自のスチームジェネレーターを組み合わせています。薪ストーブならではの力強い熱に、きめ細やかな蒸気を重ねることで、ただ熱いだけではない、身体の奥まで潤いを伴って届く熱環境を目指しました。

また、サウナストーンは特性の異なる3種類を使用し、それぞれの蓄熱性や放熱特性を活かすことで、多重層の輻射熱が生まれるように構成しています。独自のセッティングにより、入室した瞬間からしっかりとした熱圧を感じながらも、肌あたりは過度に尖りすぎない、奥行きのあるサウナ空間に仕上げています。

一方で、稲荷湯は地域の方々が日常的に利用する銭湯です。サウナ愛好家だけに向けた極端なセッティングではなく、年齢の高い方から若い方まで幅広く楽しんでい

ただけるよう、下段は穏やかに暖かく、上段はしっかり熱い、座る位置によって体感を選べる構成としました。

さらに、弊社独自のMAD式給排気システムを採用することで、十分な熱と蒸気を保ちながらも、呼吸のしやすさを損なわない空気環境を整えています。

総じて、稲荷湯の新サウナは「熱々潤々でありながら、呼吸がしやすい」ことを軸に設計したサウナです。地域の資源が熱となり、香りとなり、日常の入浴文化の中で身体に届く。その循環を、サウナという体験を通して感じていただければ嬉しく思います。

ALTERNATIVE ENERGY JAPAN 株式会社

ALTERNATIVE ENERGY JAPAN は、「地域の課題を未来のエネルギーへ、石炭を超える新たなエネルギーをつくる」というビジョンのもと、地域資源を活用したバイオコークスの開発に取り組んでいます。

今回、稲荷湯のサウナ燃料として木質バイオコークスを活用することで、地域の未利用資源を地域の熱エネルギーへと転換する具体的な事例が生まれました。

バイオコークスの製造に必要な木質原料は飛騨産業よりご提供いただき、まさに「地域で発生した資源を、地域のエネルギーとして循環させる」サーキュラーエコノミーの実践モデルとなっています。

さらに、本取り組みは単なる燃料転換に留まらず、飛騨地域の森林資源・ものづくり・温浴文化・観光体験を結び付ける新たな地域共創モデルでもあります。

サウナという“体感できる熱”を通じて、来訪者が循環型エネルギーを五感で感じられる点も大きな特徴です。

飛騨地域には豊かな森林資源があり、その活用にはまだ多くの可能性があります。銭湯という地域に開かれた場でバイオコークスが使われることにより、多くの方に地域資源循環の可能性を体感していただけることを期待しています。

ALTERNATIVE ENERGY JAPAN は今後も、地域の未利用資源を活かしたエネルギー循環の仕組みづくりを進め、持続可能な地域社会の実現に貢献してまいります。

飛驒産業株式会社

飛驒産業では、木工家具メーカーとして、「森の恵みを余すことなく活かしたい」という想いのもと、家具には使用できない木材や、山を守るための枝打ちで生じる枝葉を活用し、暮らしを豊かにする香りの製品を製造しています。

このたび、同市内に、エッセンシャルオイル（精油）の製造工程で生じる残渣を原材料としたバイオコークスをエネルギー源として活用する、資源循環型のサウナ施設が誕生しました。

精油の抽出過程で生まれる蒸留水もサウナ室内で活用され、飛驒の森の香りに包まれながら、心地良い時間をお過ごしいただける施設となっています。

地域の森林資源を、家具や香りの製品だけでなく、エネルギーや体験価値にもつなげていく。今回の取り組みが、飛驒地域における新たな資源循環のきっかけとなることを期待しています。

製作陣 / 関係企業紹介

稲荷湯

■ 稲荷湯

1943年創業の岐阜県高山市内にある公衆浴場（銭湯）。

長年にわたり、地域の暮らしを支える入浴施設として営業を続けてきた。

近年は、地域住民の暮らしを支える銭湯としての役割に加え、観光客や若い世代にも開かれた場所として、地域に根ざした新しい銭湯のあり方をつくり続けている。

今回のリニューアルでは、そうした日常の入浴文化を受け継ぎながら、地域資源を活用した新たなサウナを導入。熱、香り、資源循環を銭湯という身近な場所に組み込むことで、飛驒高山の暮らしと地域の未来をつなぐ、新しい銭湯体験を届ける。

<https://yutopia-takayama.net>

madsaunist

T O K Y O

■ madsaunist

サウナを「科学」として解体し、演出・医学まで設計の射程に収めるクリエイティブチーム。高密度の蒸気と繊細な熱環境を両立させる独自設計を強みに、空間演出からスチームデザイン、体験演出、ギア開発、施設プロデュースまで一気通貫で手がける。従来のサウナとは異なる熱と蒸気の波動により皮膚感覚と深層温熱感を再定義し、「熱々潤々で呼吸がしやすい」と評される新たな体感領域を構築。関与した場所はことごとく、話題の中心へと変貌してきた。サウナという体験の可能性を更新し続け、2024年「Saunner of the Year 2024」受賞。

<https://madsaunist.com>



■ ALTERNATIVE ENERGY JAPAN 株式会社

岐阜県高山市を拠点に、地域資源を活用した次世代エネルギーの開発に取り組む企業。「地域の課題を未来のエネルギーへ、石炭を超える新たなエネルギーをつくる」というビジョンのもと、未利用資源を活用した固形燃料、バイオコークスの製造・活用を進めている。

バイオコークスは、動植物由来の未利用資源などを高密度に固形燃料化する技術であり、石炭や薪の代替燃料として、産業用途から地域熱利用まで幅広い可能性を持つ。ALTERNATIVE ENERGY JAPAN は、地域に存在する資源を廃棄物として終わらせるのではなく、再び価値あるエネルギーへ転換することで、地域課題の解決とCO₂削減の両立を目指している。

飛騨地域に根ざした企業として、森林資源、農畜産資源、製造工程で生じる副産物など、地域に眠る資源の可能性に着目。地域内で資源を循環させるエネルギーモデルの構築に取り組んでいる。

<https://al-energy.jp>

HIDA

■ 飛騨産業株式会社

1920年に飛騨高山で創業した木工家具メーカー。2020年に創業100周年を迎え、「匠の心と技をもって飛騨を木工の聖地にする」という志を掲げ、「人を想う」「時を継ぐ」「技を磨く」「森と歩む」の4つの価値観に基づく事業を展開しています。飛騨産業が展開する木工家具ブランドHIDAでは、4つの価値観のもと、地域に根ざした持続可能なものづくりを目指しています。2013年には「きつつき森の研究所」を開設し、「高圧水蒸気蒸留法」という独自の製法で飛騨の樹木を中心としたアロマ製品や農業資材を製造する樹液事業も展開しています。

<https://hidasangyo.com>

施設概要／会社概要（お問合せ先）

社名：合同会社 inari

代表者名：代表 中村 匠郎

設立：2022年3月18日

所在地：〒506-0012 岐阜県高山市八軒町2丁目4番地

銭湯施設 HP：<https://yutopia-takayama.net/>

事業内容：公衆浴場（稻荷湯）、簡易宿所（cup of tea）の運営

Google Maps ▶ <https://maps.app.goo.gl/UKF1ebXFF3guXS93A>

関連画像 ▶ <http://bit.ly/4nTRn9R>

お問合せ先：momoe.inariyu@gmail.com（担当：白岩）